

(銀行法第21条に基づく業務及び財産の状況に関する説明書類)

令和5年 中間事業年度

(令和5年6月30日終了中間事業年度)

アイエヌジーバンク エヌ・ヴィ 東京支店

目次

	<u>ページ</u>
A. 東京支店に係る事項	
1. 東京支店の概況	1
イ. 東京支店の代表者の氏名及び役職名	1
ロ. アイエヌジーバンク エヌ・ヴィの大株主の状況	1
ハ. 営業所の名称及び所在地	1
2. 東京支店の事業の概況	1
3. 東京支店の直近2事業年度の貸借対照表及び損益計算書	3
B. アイエヌジー グループ エヌ・ヴィ(外国銀行持株会社)に係る事項	
1. 事業の概況	4
2. 直近2事業年度の貸借対照表及び損益計算書	6

A. 東京支店に係る事項

1 東京支店の概況

イ. 東京支店の代表者の氏名及び役職名

日本における代表者 渡邊（菊池）理子

ロ. アイエヌジーバンク エヌ・ヴィの大株主の状況

<u>氏名または名称</u>	<u>保有株式数</u>	<u>保有割合(%)</u>
アイエヌジー グループ エヌ・ヴィ	465,035,008	100

ハ. 営業所の名称及び所在地

アイエヌジーバンク エヌ・ヴィ 東京支店

東京都千代田区丸の内2丁目1番1号明治安田生命ビル

2 東京支店の事業の概況

当中間期の世界経済は、中国がゼロコロナ政策解除で経済活動が正常化し成長回復が見込まれる一方、ウクライナ危機が一年経過し食料やエネルギーの価格上昇が加速しました。こうしたインフレの高止まりに対応すべく日本を除く各国の中央銀行は引き続き利上げを実施しました。米国FRBのFFレートは2022年12月時点の4.50%から2023年6月時点では5.25%と75bpとの利上げとなっています。同様に、欧州ECBも物価抑制のため利上げを実施し、ECBの政策金利は2022年12月時点の2.50%から2023年6月時点で4.00%となっています。2022年から続いた政策金利の急速な引き上げに伴う副作用が現れつつあり、3月に欧米で銀行経営破綻が相次いだことから銀行部門の脆弱性が明確になりました。金利の上昇により、債券価格が下落し、米国債などの債券を運用していたシリコンバレーバンクとシグネチャー銀行は保有資産に含み損が発生したことが主の原因で破綻したと考えられます。

一方、日本でも資源価格上昇の影響を受けて物価上昇の傾向が見られるものの、日銀は本邦の物価上昇は所得水準の上昇を伴うものではなく、引き続き緩和した金融環境により景気の下支えが必要であるとの判断から、現状のイールドカーブ・コントロール政策を継続、短期金利は政策金利残高にマイナス0.10%を適用、長期金利は10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、上限を設けず必要な金額の長期国債の買い入れを行う姿勢を維持しています。

こうした各国中央銀行と日銀の利上げに対する相反したスタンスを受け、当中間期も引き続き円安が進行し、円相場は2022年12月末時点のドル円132.165円、ユーロ円140.782円から、2023年6月末時点でドル円144.835円、ユーロ円157.233円となっています。

このような環境下、アイエヌジー・グループでは、個々に最適化した、簡便かつ、スマートで差別化されたカスタマー・エクスペリエンスを創造することを戦略としおります。また、安全、安心、コンプライアンスを重視した銀行であること、健全なビジネスを維持すること、データを活用したデジタル化でお客様の進化するニーズに対応すること、そしてすべての人々のために持続可能な未来を共同で構築することに注力しております。

デジタル化した投資商品、デリーバンキング、スマートで簡単かつパーソナルな顧客体験の提供に一層注力した結果、これまで以上に多くの人がモバイルデバイスで銀行業務を行うようになりました。また、顧客企業は、地球環境と人々を守るための活動とファイナンスをリンクさせる企業行動をより一層選択するようになりました。このような状況において、収益の多様化は当行の戦略上、極めて重要な要素となっております。こうした変化に対応すべく、当支店としても、旺盛な資金需要のある国内事業法人や海外向け大型案件への融資に加えて、グリーンボンド、トランジションファイナンス等サステナブルファイナンス案件の推進に注力しております。

資産・負債の状況

当中間期末の総資産は、前期末と比較して 344 億円増の 7,936 億円となりました。主要勘定においては貸出金が前期末比 9.88% 増の 313 億円増加し 3,480 億円となった一方、非居住者円預金で流入する円資金 260 億円の減少に伴い、現金預け金勘定が前期末比 283 億円減の 3,579 億円となりました。負債の部では本支店勘定による調達の前期末比 62 億円増の 6,946 億円、預金が前期末比 264 億円減の 55 億円となりました。

貸出金

貸出金は当中間期末残高にて前期末比 313 億円増の 3,480 億円、平均残高では前年同期比 516 億円増(17.79%)の 3,355 億円となりました。当支店の営業基盤は与信・貸出業務にあり、総合商社等日本の法人顧客等が海外で出資・展開するプロジェクトへの融資案件や、欧州・アジア等海外の法人顧客が本邦においてビジネスを展開する場合に必要な資金の融資、また日本企業・本邦銀行とのリレーションシップを基盤にした国内事業法人・金融法人向けの融資にも力を入れております。

また、去年に引き続き、新型コロナウイルス関連の行動制限解除により経済活動が活発化したことから、在日拠点からの貸出であった日本型オペレーティングリースによる航空機、コンテナ、船舶の調達に対する新規ファイナンス案件が増加し、今年度は 377 億円の新規融資を実行いたしました。

有価証券

償還期限が一年以内の短期日本国債を満期保有目的で保有し、担保として活用しつつ流動性資産を維持しております。当中間期末残高は 30 億円となりました。また期中平均残高では前年同期比 14 億円減の 44 億円となりました。

預金、コマーシャル・ペーパー

預金は中間期末残高にて前期末比 264 億円減の 55 億円、期中平均残高は前年同期比 51 億円減の 320 億円となりました。これは主に国内事業法人及び在外国際機関からの大口円預金及び外貨預金の受入れによります。

コマーシャル・ペーパーは中間期末残高にて前期末比 50 億円減の 49 億円、期中平均残高は前年同期比 7 億円減の 74 億円となりました。

外国銀行代理業務

アイエヌジー ベルギー エスエー/エヌヴィ、バンク メンデス ガンズ エヌ・ヴィ、アイエヌジー バンク エヌ・ヴィ、及びその他のアイエヌジー バンク エヌ・ヴィ/アイエヌジー グループ エヌ・ヴィ傘下の在外法人の銀行代理業務を行っています。

損益の状況

当中間期の資金運用収益は主に貸出金の平均残高の増加から前年同期比 5,369 百万円増の 9,696 百万円、資金調達費用は本店からの資金調達の平均残高の増加から 5,254 百万円増の 7,633 百万円、この両者の差額としての利鞘である資金利益は前年同期比 5.93%増の 2,062 百万円となりました。これは今年度の貸出金の平均残高の増加と上述のように今年度の米ドル・ユーロの長期金利が引き続き上昇したことから、資金運用収益・費用ともに増加が見られました。

国内外での融資・与信案件の増加に伴い、アレンジメントフィー・コミットメントフィー等による役務取引等利益は 788 百万円と前年同期の 504 百万円から増加し、役務取引等費用は 115 百万円と前年同期の 325 百万円から減少しました。業務粗利益は前年同期比 591 百万円増の 2,971 百万円となりました。

一方で営業経費は前年同期比 21.94%増の 1,317 百万円となりました。また、前年同期の 392 百万円の貸倒引当金戻入益に対し、今期においては貸倒引当金繰入を 86 百万円計上しました。経常利益は前年同期比 125 百万円減の 1,566 百万円を計上し、中間純利益は 605 百万円(前年同期比 522 百万円減)となりました。

3. 東京支店の直近2中間事業年度の貸借対照表及び損益計算書

中間貸借対照表

(単位 : 百万円)

科目	令和4年 9月末	令和5年 6月末	科目	令和4年 9月末	令和5年 6月末
現金預け金	394,126	357,992	預金	24,683	5,544
コールローン	-	-	譲渡性預金	-	-
買現先勘定	-	-	コールマネー	-	-
債券貸借取引支払保証金	-	-	売現先勘定	-	-
買入手形	-	-	債券貸借取引受入担保金	-	-
買入金銭債権	-	-	売渡手形	-	-
商品有価証券	-	-	コマーシャル・ペーパー	14,999	4,999
金銭の信託	-	-	借入金	-	-
有価証券	6,000	3,000	外国為替	-	-
貸出金	289,395	348,022	その他負債	30,361	30,673
外国為替	799	562	賞与引当金	54	47
その他資産	29,767	31,225	退職給付引当金	240	274
有形固定資産	133	112	特別法上の引当金	-	-
無形固定資産	110	108	繰延税金負債	-	-
前払年金費用	-	-	支払承諾	2	46,898
繰延税金資産	590	561	本支店勘定	657,651	694,693
支払承諾見返	2	46,898	小計	727,993	783,132
貸倒引当金	△ 1,838	△ 1,330	持込資本金	2,568	2,568
本支店勘定	17,890	6,447	中間繰越利益剰余金	6,416	7,900
			その他有価証券評価差額金	-	-
			繰延ヘッジ損益	-	-
			土地再評価差額金	-	-
合 計	736,978	793,601	合 計	736,978	793,601

(注) 令和5年6月末

1. 貸出金のうち、3ヶ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権は該当なく、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は678百万円、危険債権額は1,629百万円、その合計額は2,308百万円です。

2. 担保に供されている資産及び金額 : 有価証券 3,000百万円

本店 : オランダ・アムステルダム

中間損益計算書

(単位 : 百万円)

科目	令和4年 9月末	令和5年 6月末	科目	令和4年 9月末	令和5年 6月末
経常収益	5,832	10,720	経常利益 (又は経常損失)	1,692	1,566
資金運用収益	4,326	9,696	特別利益	-	-
(うち貸出金利息)	4,034	9,106	特別損失	0	-
(うち有価証券利息配当金)	△ 3	△ 4	税引前中間純利益	1,691	1,566
役務取引等収益	504	788	(又は税引前中間純損失)	-	-
その他業務収益	253	236	法人税、住民税及び事業税	351	1,032
その他経常収益	747	-	法人税等調整額	212	△ 70
経常費用	4,140	9,153	法人税等合計	563	961
資金調達費用	2,379	7,633	中間純利益	1,127	605
(うち預金利息)	△ 12	△ 14	(又は中間純損失)	-	-
役務取引等費用	325	115	前期繰越利益剰余金	6,984	7,295
その他業務費用	-	-	本店への送金	1,694	-
営業経費	1,080	1,317	(本店からの補填金)	-	-
その他経常費用	355	86	中間繰越利益剰余金	6,416	7,900

本部経費負担額

(1) 直接経費 (派遣職員給与等): 4百万円

(2) 間接経費割当額: 736 百万円

B. アイエヌジー グループ エヌ・ヴィ (外国銀行持株会社) に係る事項

1. 事業の概況

INGグループは2023年上半期に37億4600万ユーロの純利益を計上

「2023年第1四半期は好調な業績を記録し、幸先の良いスタートを切りました。」と、INGのステイブン・ファン・ライスワイク最高経営責任者（CEO）は述べました。当社の業績は、顧客基盤の拡大を伴う多様なビジネスモデルの強さを裏付けています。弊グループの強固な資本基盤、多様な資金調達プロフィール、健全なリスク管理により、より広範な経済と顧客を支援し続けることができました。

激動の市場環境に見舞われた当四半期においても、顧客は引き続き当部門に信頼を寄せてくださいました。これは、当四半期に13億ユーロ増加した、弊行の安定かつ多様化した預金基盤が証明しています。将来の価値創造に向けたもうひとつの重要な要素は、顧客との関係を深める機会を与えてくれるため、主要顧客の数を増やすことです。当四半期の主要顧客数が10万6,000人増加し、1,470万人となったことを喜ばしく思います。

財務面では、現在の金利環境から恩恵を受けました。負債利ざやの改善に支えられ、利益は前年同期を21%上回りました。ホールセール・バンキング部門は特に好調で、デイリー・バンキングからの収益貢献が大きく、金融市場部門も好調でした。経費は、昇給と事業拡大を支えるためのマーケティング費用の増加により増えました。前四半期比では、インフレの影響はそれほど顕著ではありませんでしたが、競争力を維持するため、経費に注視していきます。リスク費用は、貸出債権の質と過去の引当金繰入額の一部取り崩しなどを反映して、低水準にとどまりました。

顧客に優れた体験を提供することは、私たちの"making the difference"戦略の柱です。弊行のサービスをより利用しやすくしている例として、オランダでは、視覚障害者が自立して安全にモバイル決済を行えるよう、当社のアプリに音声機能を搭載しています。また、ドイツではオンライン・アイデンティティ・カード機能により、より迅速で便利なオンボーディングを実現しています。すでに新規顧客の最大20%が本人確認のために利用しており、完全デジタルであるため拡張性があり、効率的です。主な業績指標としては、リテール市場10カ国のうち5カ国でNPSのトップの座を維持し、iOSとアンドロイドのアプリ・ストアではそれぞれ8カ国と5カ国で4.5星以上を獲得し、第1四半期には顧客とのコミュニケーションの72%以上がパーソナライズされました。

私たちの"making the difference"戦略のもうひとつの柱は、持続可能性を私たちの活動の中心に据えることです。弊グループは、顧客の低炭素社会への移行を支援することで、低炭素社会への移行を促進し、融資することを目指しています。2023年第1四半期には、98件のサステナビリティ取引を成立させ、サステナビリティ・ファイナンスの動員額は累計で219億ユーロを達成しました。

昨年、弊行は新しい油田・ガス田の探鉱・採掘のための新規「上流」プロジェクトに対するプロジェクト・ファイナンスを制限する最初のグローバル銀行となりました。今年3月には、このアプローチを『中流（石油・ガスのインフラ）』事業にもさらに拡大すると発表しました。また、当社が融資する石油・ガスの取引量を削減することを目指しています。同時に、再生可能エネルギーへの年間融資額を増やすことも目指しています。2022年にINGがクリーン・エネルギー分野で世界の主要レンダーのトップ10にランクされたことを嬉しく思います。

全体として、私たちの第1四半期の業績は、私たちの戦略を日々実行に移している世界中の従業員の卓越した働きを反映しています。トルコとシリアの壊滅的な地震の後や、ウクライナで引き続き見られるように、従業員が必要な時に顧客や従業員同士を支援したことを誇りに思います。私たちは、すべてのステークホルダーに価値を提供し続けると確信しています。

「2023年第2四半期は、経済マインドが弱まり、地政学的な不確実性が持続し、インフレ率が高まったものの、前四半期ほど顕著ではなかったため、引き続き厳しい結果となりました。」と、INGのステイブン・ファン・ライスワイク最高経営責任者（CEO）は述べました。このような状況の中、弊行は引き続き好調な業績を達成しました。現在の金利環境が、リテール・バンキングとホールセ

ール・バンキングの両部門の収益の伸びを牽引し、リテール市場全体で預金流入が続きました。景気が冷え込んでいるにもかかわらず、当四半期も貸出が伸び、手数料収入も増加しました。

将来の価値創造に向けた重要な原動力となる、大幅な顧客数の増加を記録できたことを喜ばしく思います。主要顧客数は22万7,000人増の1,490万人となりました。モバイル決済取引件数は当四半期に18%増加し、2022年第2四半期比で37%増加しました。モバイルのみの顧客のシェアは現在60%に達しています。彼らは当社の主要チャネルであるモバイルを通じてのみ取引を行います。

リテールバンキング部門は、各市場で良好な業績を達成しました。預金残高は引き続き増加し、ドイツでは170億ユーロの大幅な資金流入がありました。オランダとスペインでは、季節的な資金流入に加え、オランダではビジネス・バンキングの顧客向けに貯蓄性商品を導入したことが成長を牽引しました。住宅ローン・ポートフォリオもオーストラリア、オランダ、ドイツでの増加に牽引され、増加しました。

ホールセール・バンキング部門は、規律ある資本管理とリスク加重資産に対する収益の増加により、当四半期も好調な業績を達成しました。デイリー・バンキングとトレード・ファイナンスは現在の金利環境から恩恵を受けました。手数料収入はグローバル・キャピタル・マーケット事業と貸出事業の双方で増加しました。当部門は引き続き顧客の活動や取り組みを支援しましたが、レンディングの伸びは商品価格の下落や経済活動の減退が反映され、トレード&コモディティ・ファイナンスや運転資本ソリューションの取引高の減少により相殺されました。

経費は、人件費へのインフレの影響や、将来の事業拡大のための継続的な投資にもかかわらず、前四半期比微減となりました。第2四半期のリスク費用は限定的で、貸出債権の質の高さを裏付けています。リスク費用が低水準にとどまり、引当金繰入額に明確な傾向は見られなかったものの、顧客の生活コストや事業コストが上昇する中、引き続き注視して参ります。また、強力な資本創出により、自社株買いプログラムにもかかわらず、CET1比率は14.9%に上昇しました。

私たちは、持続可能な事業を中心に据えることを目指しています。私たちはグローバルな銀行として、まだ十分にグリーン化されていない今日の社会に資金を供給しています。しかし、弊行の強みと能力を活かして、必要な商品やアドバイスを提供することで、お客様の低炭素経済への移行を支援していく所存です。当四半期の好例としては、ベルギーのビジネス・バンキング部門のお客様向けに「エコ・リノベーション・ローン」を導入したことが挙げられます。当部門は引き続き、ホールセール・バンキング部門の顧客の事業移行を支援し、第2四半期には250億ユーロの資金を動員しました。

厳しいマクロ環境の中、私たちのビジネスモデルは、デジタル基盤に支えられた戦略の継続的な実行により、力強い業績を達成することができました。人と地球のために変化をもたらし、すべてのステークホルダーに価値を提供し続ける努力と能力に自信を持っています。献身してくれたすべての同僚、忠誠を尽くしてくれた顧客、そして私たちを信頼してくれた株主をはじめとするステークホルダーに感謝しております。

2. 直近2中間事業年度の貸借対照表及び損益計算書

イ. 連結貸借対照表

<資産の部>

(単位 百万ユーロ)

	令和4年6月30日	令和5年6月30日
現金及び中央銀行への預け金	126,030	113,636
他行への預け金	22,966	32,905
損益計算書を通じて公正価値で測定する金融資産	138,628	141,983
その他包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	30,745	37,391
有価証券(償却原価法による)	48,371	48,212
貸付金及び顧客に対する受取債権	637,000	637,582
関連会社等に対する投資	1,477	1,485
建物、土地、器具備品および設備	2,562	2,425
無形固定資産	1,119	1,120
前払税金等	842	283
繰延税金資産	1,547	1,565
その他の資産	8,778	10,593
資産の部合計	1,020,064	1,029,181

<負債及び資本の部>

	令和5年6月30日	令和5年6月30日
他行からの預金	90,513	31,156
顧客からの預金	642,076	677,959
損益計算書を通じて公正価値で測定する金融負債	107,982	116,281
未払法人税等	280	555
繰延税金負債	550	220
引当金等	1,029	872
その他の負債	16,997	14,786
負債証券の発行	93,123	120,129
劣後債	15,473	15,761
負債の部合計	968,023	977,718
資本金及び資本剰余金	17,155	17,153
その他準備金	(1,413)	(1,664)
利益剰余金	35,886	35,254
当社株主資本	51,628	50,742
非支配持分	413	721
資本の部合計	52,042	51,463
負債及び資本の部合計	1,020,064	1,029,181

ロ. 連結損益計算書

(単位 百万ユーロ)

	令和4年6月30日	令和5年6月30日
利息法による受入利息	10,476	20,618
その他の受入利息	1,347	4,773
受入利息計	11,822	25,391
利息法による支払利息	(3,775)	(12,495)
その他の支払利息	(1,168)	(4,823)
支払利息計	(4,942)	(17,318)
純利息収益	6,880	8,073
純受入手数料収益	1,822	1,807
評価損益とネットトレーディング収益	819	1,419
投資収益	61	16
その他の収益	(300)	10
収益合計	9,282	11,325
貸倒引当金繰入額	1,189	250
人件費	2,976	3,320
その他営業費用	2,706	2,376
費用合計	6,871	5,946
継続事業による税引前利益	2,411	5,379
法人所得税等	724	1,533
継続事業による純利益	1,686	3,846
当期純利益（非支配持分差引前）	1,686	3,846
差引：非支配持分に帰属する当期純利益	80	100
当社株主に帰属する当期純利益	1,606	3,746